

若者マカオ旅行企画チャレンジ事業  
「マカオ研修旅行」報告書  
サイバー大学 チーム  
(2009年8月27日～31日;4泊5日)



サイバー大学

世界遺産学部 教員 小柳美樹

学生 荒木利美

学生 直井麻弥

学生 住吉陽子

2009年9月13日 作成

マカオ観光局が企画する「若者マカオ旅行企画チャレンジ事業」にサイバー大学世界遺産学部教授高梨洋一郎が同学准教授小柳美樹に紹介、小柳が賛同し、産学連携として参加することとなった。その企画遂行のため、2009年8月27日より31日までの4泊5日でマカオ現地での研修旅行を行った。本書はその概要を記す報告書である。

学生・教員ともに有意義な調査を行うことができ、マカオ観光局には非常に感謝する次第である。

#### 凡例

1) 渡航先; 中華人民共和国特別行政区マカオ

2) 参加者 4名

サイバー大学 世界遺産学部 准教授 小柳美樹

サイバー大学 学生 (IT 総合学部) 荒木利美、

(世界遺産学部)直井麻弥、住吉陽子 (いずれも2007年春入学)

3) 渡航期間 2009年8月27日～8月31日 (4泊5日)

#### 調査概要

##### 【研修旅行前】

チームの設定はやや難航した。サイバー大学は通信制であるために、日本全国はおろか世界各地に学生が分散している。私自身、直接に対面した学生はすべてではない。また学生の年齢層も幅広い中で、他大学と競争(コンペティション)していく中で、20歳前後の学生を選出することからはじめることとなった。

特に指導教員となる小柳の科目を履修済みの学生で年齢対象者15名ほど呼びかけ、参加希望者を第一次的に選出し、また研修調査旅行の日程に合致するものということで3名が最終的に選出された。

サイバー大学の特色でもあるように、学生の在住地は東京・新潟・福岡と分散している。学生それぞれは対面したことがなく、研修旅行ではじめて顔を合わせる事となった。

研修旅行までの約2ヶ月間では、まずサイバー大学 SNS に「マカオ旅行企画」コミュニティを立ち上げ、①旅行企画、②既存旅行プラン商品の検討、③親睦を深めることを進め、活発な意見交換を行った。

コミュニティの立ち上げとともに、学内においても興味関心を強めるために、学長ほか教員一同・広報部との連携を図ることとなった。

教員は適時、マカオ観光局より有益な教示を賜ることができ、研修旅行に際しての多大な便宜を受けたことを改めて感謝したい。

【第一日目:8月27日(木) 日本もマカオも晴れ】

1日目	08:00	成田空港T2に集合		
8月27日(木)	09:45	CX509 成田発	10:50	CX511 福岡発
	13:25	CX509 香港着	15:00	CX511 香港着
	15:15	合流		
	16:15	ターボジェット(8S125)香港空港発		
	17:00	ターボジェット(8S125)マカオ着		
		入国審査		
	18:00	シントラホテル(リムジンバス利用)		
	18:30	セナド'広場散策後、夕食(中華料理)		
	20:00	新八百伴		
	21:00	帰舎		

第一目の行程は、日本から香港経由でマカオという移動の一日であった。

成田空港出発組が3名、福岡空港出発が1名であり、香港空港で合流であった。

朝8時に集合であるために、学生の一人は空港近くに前泊し、またほか2名も早朝に家を出ている。ほぼ予定通りの飛行スケジュールであり、香港空港で約2時間近く福岡出発の学生を待ち、ゲートで待ち合わせる事となった。

成田空港発の CX509は快晴であり、太平洋側の風景(静岡や鹿児島、台湾など)が眼下に確認することができた。機内食は魚フライの卵とじであった。

福岡空港発の学生は、両隣りにフランス人夫婦に囲まれ、また台北経由であったために、食事が2度供給され(しっかり戴く)など印象に残る体験をしたようである。

ゲートでの待ち合わせも問題なく、「初対面」を喜び合った。



ターボジェットのチェックインもスムーズに行うことができた。ターボジェットは赤く、わたしたちは「赤い彗星」と呼び合ったが、出発すると同時に配られた入国審査の用紙記入で下を向く時間が続き、二人は船酔い状態となった。(書類は下船後にカウンターで記入した)。帰路の際に注意すべき点として確認したが、時間に余裕があるのならば、ターボジェットとは別の交通機関利用

を考えても良いかもしれない。

入国審査は混雑しており、40分近く並んで待たされた。入国審査官も対応がいささか乱雑気味であったことも印象に残った。マカオで「最初に会ったマカオ人」(のひとり)でもあるからだ、職業柄なのか、その無表情さに、わたしたちは「真顔のマカオ」というコピーを作ったほどである。

ホテルへのリムジンバス乗り場も落ち着いて周囲を見渡せば分かり易く、またやってくるバスを注意深く確認していれば、自分たちの宿泊場所のバスがどれであるかが分かる。もちろん係員に聞くのが一番であり、親切な対応をしてくださる。

フェリー乗り場からホテルまでは約20分であり、車窓から高く伸びたマンション群や

さらに高く伸びたカジノ・高級ホテルの景色に圧倒されながら、シントラーホテルに到着することとなる。

チェックインもスムーズに行われ、12時間以上の移動が終わる。フロントや掃除係は北京語(國語)が十分に通じる。(が、通じない時は見事に通じない)

ホテルは3人が一部屋であり、エクストラベッドが用意されていたが、ベッドの分配などもスムーズに行われたようである。

(これは後でも話題になるし、実際の行程の中でも有益だったことであるが、学生4人の参加では、グループや仲間で分散しやすく、またタクシーなどの移動では教員を含めると5名となるため不便であったらうと、今回の人数は結果的に良かったという感想を抱いた)



マカオ観光の中心でもあるセナド広場を散策し、その一角にある中華レストランで晚餐となる。四川料理の一品である「水煮肉」を戴き、それぞれの辛さや嗜好具合などを確認しあつた。

ホテル近くのヤオハンに寄って、日本製品の豊富さと、また日本ではほとんど見かけない「日本製品」を眺めショッピングした。この後、連夜、ヤオハンには寄って、水を買ったり、土産物を購入したりした。コンビニも近くにはあつたが、ヤオハンのようなスタイルの方が買い易いようである。

## 【第二日目:8月28日(金) 晴れ】

2日目	08:30	朝食
8月28日(金)	09:30	葡京よりバスで路環島行き乗車 ひとり6・4\$
	10:10	路環地区にて下車
	10:30	天后廟
	10:50	譚公廟
	11:10	聖方濟各聖堂(聖フランシスコ・ザビエル教会)
	11:30	安德魯餅店
	12:00	船人街~海関(税関所)
	12:16	石排灣公園(主に自然農業博物館)見学
	13:30	バスで葡京(ホテル)へ
	14:00	ホテルで休息(荒木・直井 暑さのため午後はそのまま休息)
	15:15	(住吉・小柳)海事博物館に向かう(タクシー乗車20\$くらい)
	15:25	媽閣廟
	15:35	海事博物館
	16:50	食事(住吉・小柳)
	17:30	ホテルに戻る
	18:40	セナド広場
	19:20	明苑麵粥店にて食事・喫茶
	20:00	新八百伴
	20:45	帰舎

第二日目、実質的なマカオ一日目の行程である。

この日は、教員と学生が集団で行動しようと決めている一日であり、学生のリクエストは「遠い場所」ということで、コロアン島に行くこととした。教員は石排灣公園に

ある自然農業博物館を見学希望があり、ゆっくりと回ろうと計画をした。

ホテルを出るなり、「暑い」。汗が吹き出るようであり、日焼け止めが流れていくことなどを気にする。

バスの乗り方については、事前に配布されていたガイドブックなどで確認ができていて、実際にその通りであった。①手をあげて乗車、②一律料金、③循環ルートである。

小さな島であるために、少人数ならばバスの利用も良いだろうし、タクシーを上手に利用するのも方策のひとつであろう。

料金は釣り銭が無いために、旅行初日では換金したばかりで「札」しかなく、コインが少ないので難儀する。情報ではIC方式のバスカードが販売されていて、コンビニなどで売られているようであるが、あまり注意もしていなかったために手に入れなかった。手に入れていれば、旅行の仕方や行き先なども変わっていたことであろう。



コロアン(路環)地区はとてものどかであり、参加者全員に好評であった。暑い中、菩提樹の並木の下を歩きながら、天后廟、譚公廟などを参観。仏教について、海の守り神について、ガイドブックなどを参考にしながら実物資料と確認する。鯨の骨がガイドブックでは見ものということで、実際に見ごたえある資料であったが、無造作に置かれていることに驚きながらも、「現地に根付いた生きた資料」であることを改めて感じた次第である。珠江河口となる渦ではムツゴロウを見つけたり、また向こう岸の中国本土との距離があまりにも近いことを改めて感じたりしながら、自然地理環境について確認することができた。



聖方濟各聖堂(聖フランシスコ・ザビエル教会)では、改めて東アジアへのキリスト教布教について考え、また日本との交流について、想像以上に「近い」ことを認識した。



安德魯餅店はエッグタルトの有名な店であるが、店員さんも気さくで、親切だったことが印象に残る。店前の石のベンチで冷たい飲み物と、できたてのエッグタルトを戴いた。味の感想は一応に「焼きプリン」であった。(間違っていたら、ごめんなさいということにしようと話し合った)。

店の窓には日本語の文字があり、少し興冷めした意見もあったが、大阪に支店があるらしく、その何周年かの記念デコレーションであったようで、「日本国内で探すマカオ」も良いのではないかと意見もあった。

税関のある船人街まで行き、干し魚(出汁用)の店などを見学。

タクシーで石排灣公園に行き、農業博物館を見学。その後、媽祖像山頂まで歩こうとするが道が閉鎖されており(公園からは行けないため)、断念。暑いため、しばらく公園内で休憩するが、午後2時頃まではより暑くなるだろうということで、ホテルで休息することも旅のひとつということで、「夏のマカオ～昼はホテルで休もう！」をモットーとすることにした。



ホテルで休息後に、そのまま休息を希望する学生を残し、海事博物館に行くこととする。海事博物館付近にはマカオ

の名の由来ともなったという「媽閣廟」がある。観光客がにぎわうひとつであり、大型バスが多く停車していたことも印象深い。



海事博物館は、充実した展示内容であった。マカオの社会事業やその予算が潤沢なのだろうと察する。展示は①マカオの海の民俗資料、②船舶史、③航海技術史などがあり、また南蛮貿易に代表されるような日本と関係する資料展示もみられた。また展示キャプションの一部には日本語表記のものも確認できた。



宵の入りでは、セナド広場を散策し、一角にある明苑麵粥店で銘銘、麵や粥を食す。マカオ風といっても良いのか、細麵やたっぷりの粥に改めて日本での中華料理とも異なる風味を堪能し、食文化について考えた。

食後はヤオハンに行き、文房具や玩具を中心としてどのようなものが売られているかを観察した。

一日を振り返り、さまざまな感想・意見が出た。

- ① 仏教建築や仏像について、より詳しく知りたい
- ② エッグタルトは日本で流行するか(中身を変えると何がヒットするか)
- ③ 暑いので、日中の暑い時間はできるだけ室内での見学場所を考える
- ④ やっぱり暑ければ、無理をせずにホテルで休息をとる

【第三日目:8月29日(土) 晴れ】

3日目 8月29日(土)	08:30 朝食 (学生班と教員班に分かれての行動)	
	学生班(左)	教員班(右)
	9:55 セナド広場へ	9:30 セナド広場
	10:00 玫瑰堂(聖ドミニコ教会)	9:32 仁慈堂(通過)
	10:10 大堂	9:40 玫瑰堂(聖ドミニコ教会)
	10:20 仁慈堂大樓、仁慈堂博物館	9:45 大三巴牌坊(聖ポール天主堂跡)
	10:58 大三巴牌坊(聖ポール天主堂跡)	10:00 ナーチャ廟
	11:45 帰舎	10:10 モンテの砦
	13:20 昼食後休息	10:25 マカオ博物館
	15:30 活動再開	11:35 聖安多尼堂(聖アントニオ教会)
	15:50 ナーチャ廟	11:40 白鴿巢前地(カモエンエス広場)
	16:08 モンテの砦、大砲台	11:55 花王堂斜巷を歩く
	16:25 マカオ博物館	12:00 十月初五街を歩く
	17:20 大砲台	12:03 康公廟
	17:45 關帝古廟	12:10 新馬路を歩き
	17:50 セナド広場(ジュース屋さん)	12:50 典富業展示館(質屋博物館)
	18:15 帰舎	13:30 昼食後、帰舎休息
		15:00 活動再開
		15:12 八角亭
		15:13 荷蘭園大馬路を歩く
		15:25 文化廣場(書店)
		16:30 政府機関建物を散策
		16:35 マカオ茶文化館(閉館)
		16:40 國父記念館(孫文記念館)
		16:55 肥利喇壘美打大馬路を歩く
		17:05 観音堂
		17:30 バスにて葡京に戻る、帰舎
	18:55 夕食のために外出	
	19:00 リスポアホテルのロビー見学	
	20:00 散策後にセナド広場に出て、黄枝記粥麵店で夕食	
	21:00 帰舎	

第三日目、実質のマカオ二日目は、教員と学生が分かれて行動しようという行程である。学生の中には不安がる者も居たが、せっかくの旅であるので自発的に動き、また異なる視点や感想を持って、帰舎後に意見交換をすることを目的とした。

教員が早めに出発して、セナド広場から大三巴牌坊(聖ポール天主堂跡)を目指し、当時の遺構(石組み)などを観察した。マカオ博物館見学後に、聖安多尼堂(聖アントニオ教会)、白鴿巢前地(カモエンエス広場)を通り、花王堂斜巷・十月初五街を歩き、漢方薬剤店や各商店などを散策し、昼過ぎに國父記念館(孫文記念館)、観音堂などを参拝した。



学生班は、セナド広場を基点として仁慈堂大樓、大三巴牌坊(聖ポール天主堂跡)などをゆっくりと散策しながら見学した。午後はマカオ博物館と砲台、關帝古廟などを見学した。

夕食時に合流して、せっかくなのでリスポアホテルのロビーだけ、つまりカジノの入り口を見学した。豪華な玉製品など飾られ



ており気分を高揚させるのだろうか、圧倒されてそそくさと退場した。リスボアホテルの東南側のエリアは大小のカジノ店が軒を連ねており、結局、それを避けるように北に歩き、小道を歩くいつもの晚餐場所セナド広場に出た。黄枝記粥麵店で銘銘が麵などを食す。

一日を振り返り、主な感想・意見が出た。

た。

- ①携帯電話にカジノの宣伝メールが受信されてしまうので困る
- ②マカオ博物館が予想以上に勉強になった
- ③旅の企画のひとつ「社会貢献」としていくつか案が出された。「落書き」を消す作業はどうであろうか。



- ④カジノはそんなに魅力的か(参加者全員、まったく興味が無い)
- ⑤マカオのひとつとは小顔が多いようだが、何故だ?
- ⑥マカオのひとつとは、こんなに暑いのに、汗をかかないのか?
- ⑦おなかを出している男性をみると驚く。

【第四日目:8月30日(日) 晴れ】

4 日目	08:30 朝食 (学生班と教員班に分かれての行動)	
8月30日(日)	学生班(左)	教員班(右)
	10:40 榮馨祥で買い物	10:00 バスにて路環島黒沙海岸へ
	11:10 便民薬局	10:35 黒沙公園内新石器文化遺跡
	11:30 典富業展示館(質屋博物館)	10:48 黒沙海岸
	11:45 文化會館(買い物)	11:00 バスにて路環島市区へ
	12:00 義順牛垢公司以喫茶	11:20 船人街~荔枝灣村(船工場地区)
	12:20 ジュース屋	11:45 安德魯餅店でレモネード
	12:30 ホテルに一旦戻る	11:50 バスにてタム仔(タイパ)島市区へ
	13:30 郵便局(セナド広場)	12:08 三婆廟
	16:00 明苑麵粥店	12:13 住宅式博物館(タイパ・ハウス・ミュージアム)
	17:00 藝舎などセナド広場周辺で買い物(本屋など)	12:43 嘉模教会(カルモ教会)

17:30 NEW21(服屋)

13:10 歴史博物館

14:00 官也街を歩く

14:10 昼食(咖喇全餐廳)

14:35 タクシーにて半島部蓮峰廟へ(約 80 \$)

14:55 蓮峰廟

15:10 林則徐記念館

15:27 關閘馬路を歩く

15:35 關閘(出入境ゲート)

15:55 バスにて南灣大馬路へ

16:10 天神巷～セナド広場を歩き帰舎

18:50

ソルマー(沙利文餐廳)で晚餐

20:00

新八百伴

21:00

帰舎

第四日目、実質的なマカオ三日目の行程である。

本来の計画では、第四日目は、それぞれ個人行動でマカオを巡ろうということであったが、せっかく仲良く廻っているのので、このままグループで廻りたいとの一致した意見となった。教員の方は、専門研究分野となる考古学の遺跡「黒沙遺跡」と、船大工関係の民俗資料を求めてコロアン島に再び行き、時間があれば廻っていない場所を廻るということになった。

学生班は特にセナド広場を基点として巡るプランを考えていく一方で、お土産についても何が良いか考える一日であった。セナド広場から大三巴牌坊に向かう道のりにはお土産屋さんが多く軒を連ねている。また近在の典富業展示館(質屋博物館)を見学し、お茶ができるところではゆっくりと楽しんだ。義順牛垢公司以牛乳プリンなども食した。

生姜味であったり、思いのほか温かいものであったりしたことも印象深い。

書店でのマカオ関係の文献や、子供用の絵本、また郵便局で売られている記念切手なども土産の候補として挙げられる。

教員班は上述したようにコロアン島での遺跡見学、黒沙海岸見学、造船工場が多い荔枝灣村を巡った後に、タイパ島で三婆廟、住宅式博物館(タイパ・ハウス・ミュージアム)、嘉模教会(カルモ教会)、歴史博物館などを巡り、半島部やコロアン島ともまた趣の異なるタイパ島の雰囲気を感じ



じた。その後、タクシーを利用し、半島北部に行き、蓮峰廟、關閘など精力的に見学した。

最後の晚餐は、ソルマーでポルトガル料理・洋食を堪能した。ヤオハンに寄って、土産を購入し、ホテルに戻り旅の感想など意見を交わした。



一日やこれまでを振り返り、主な感想・意見が出た。

- ①マカオのひとつとは親切だ
- ②スリは居るのだろうけど、被害にあわなかったのは良かった。用心に越したことはない。
- ③マカオらしい土産は難しい
- ④日本語の書かれた T シャツが目についたが、日本では着ることができないようなものが多い
- ⑤公衆トイレの位置が良く分からないので、ガイドブックにその表示が必要だ
- ⑥トイレにトイレットペーパーが設置されていないので準備が必要だ
- ⑦カレー味が多いのはマカオの歴史的なのか、嗜好なのか
- ⑧ヤオハンで売られているような日本製の化粧品は高いが、誰が買うのか。

一般の人はあまり化粧をしていないようだ。実際はどうなのだろうか。

#### 【第五日目：8月31日(月) 晴れ】

5日目	08:30	朝食		
8月31日(月)		自由行動		
		シントラホテル・チェック・アウト(リムジンバス利用)→フェリー乗り場へ		
		出国審査		
	11:15	ターボジェットマカオ発		
	12:00	ターボジェット香港空港着		
		成田組と福岡組解散		
		15:00 CX500 香港発	14:55 CX510 香港発	
		20:20 CX500 成田着	20:45 CX510 福岡着	
	20:40	成田空港T2にて解散		

第五日目、最終日であり日本への移動の日である。折りしも、日本の関東地方には台風が接近しており、飛行機到着時間が最接近の時間である。

ホテルのチェックアウトまで時間があるので近所の世界遺産などを見学することも可能であるが、荷造りと最後の話に花が咲いた。

ターボジェットや香港でのトランジットなどもスムーズであった。台風に影響されてい

ないようであった。香港空港内では店も多く、食堂も多かった。ゆっくりと過ごすことができた。

日本帰国もスムーズであった。台風の影響もほとんど無かった。成田空港で解散したが、それぞれ帰宅した時間はまちまちであり、新潟在住の学生は帰宅が(親の車で高速道路利用)午前3時頃であった。

帰国後にサイバー大学 SNS で交わされた主な意見など

- ①マカオは楽しかった
- ②海外旅行初心者にはうってつけの場所だと思う
- ③海外旅行に慣れた人も楽しめるだろう
- ④マカオ半島内に集中している世界遺産だが、30数箇所を全部廻る旅行プランは必要だろうか(否定的な意見が多い)
- ⑤コロアン島での自然と触れ合うプランは滞在時間が長ければぜひ薦めたい
- ⑥博物館巡りはテーマを絞るべきであろう(全ては観切れない)
- ⑦暑い時期だったが冬や春のマカオはどのような様子なのだろうか
- ⑧子供が楽しむ場所はあるのだろうか(石排灣公園は良かった)。
- ⑨歩いて廻れる範囲なのは分かるが、とにかく暑かった。
- ⑩また皆と行くために最優秀校目指してがんばりたい。

今後の検討課題も含めて、旅行プランの具体的な計画を立てていくことを確認した。

